

トップメッセージ



2024年7月

令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

現在、社会や市場は多くの問題と課題を抱えています。地球環境の激変、紛争の多発といった生命に関わる根本的な問題から、エネルギー高騰や、原材料高、人権に関わる課題など、多岐にわたります。そのどれもが企業に迅速な取り組みを要求し、そして企業は事業や自社の技術などによって真正面から対応しなければなりません。

今や企業は「社会に有用であること」が必要条件であり、加えて、先進性と持続可能性、つまり、競争力の高い技術や製品とともに、「いかなる変化にも柔軟かつ迅速に対応し続けられること」が要求されていると言えます。

積水化学グループの事業ドメインは、レジデンシャル、アドバンストライフライン、イノベティブモビリティ、ライフサイエンスと多岐にわたりますが、その大半がくらしや生命、ライフラインに関わる、人や社会の根源的なニーズに対して独自の技術で応える製品・サービスを提供するものです。これらの製品へのニーズは、いかなる状況にあっても存在し、はやりすたりはありません。このことが、今日までの当社グループの着実な成長につながった要因のひとつと言えます。いわば、社会のサステナビリティに貢献することで、当社グループのサステナビリティを実現できたわけです。

では、これからも、今まで通りでよいのか？ くらしや生命への貢献を存在意義とすることは堅持しますが、社会や市場の変化を直視し、大胆な改革も実施していきます。

当社グループは2020年、長期ビジョン「Vision 2030」を策定し、ビジョンステートメントを「“Innovation for the Earth” サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造する」としました。イノベーションとその普及を通じて、社会のサステナビリティの向上に貢献するという意志と社会的な役割を明確に示したわけです。同時に、2030年の業績目標も定め、当社グループの業容拡大の意志も示しました。

そして、長期ビジョン達成に向けての中期経営計画「Drive2.0」（2023～2025年度）では、戦略的創造、現有事業の強化、ESG経営基盤強化の3つの取り組みで長期ビジョンを加速させることをねらいとし、最終年度の売上高目標を1兆4,100億円と決めました。そのうち1兆円超をサステナビリティ貢献製品の売上拡大によって目指しています。サステナビリティ貢献製品は長期ビジョンにおいて最も重視している経営指標であり、当社グループの役割であるくらしと生命、ライフラインへの貢献をどの程度達成しているか、を表すものです。

ESG経営基盤の強化においては、気候変動、資源循環を重点施策とした「環境への取り組み」、活力あふれる会社の実現に向けた「人的資本への投資」、そして、ESG経営の大前提である「ビジネスと人権」への取り組みも加速させていきます。

今年もサステナビリティレポートにおいては、これら長期ビジョンに対する当社グループの取り組みの方向性、進捗についてお示しいたしましたので、ぜひご覧ください。ステークホルダーの皆様におかれましては、今後ともご理解賜りますようお願い申し上げます。